

## 平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

### 1 めざす学校像

21 世紀の国際社会をリードする新しい時代のリーダーを育てる学校めざす。

- 1 知・徳・体の調和のとれた人間を育成するとともに、社会に貢献する志を持った、グローバルなリーダーを育てる。
- 2 夢や志を実現できる確かな学力を身につけさせ、生徒の進路希望の実現を図る。
- 3 豊かな心や三丘スピリット（文武両道、自主自立、切磋琢磨）を育む。また、要配慮生徒への支援や人権尊重の精神を涵養し、安全・安心な学校をつくる。
- 4 教職員の資質の向上と機動的な学校運営体制を確立させ、府立高校の評価・信頼向上のリーダー校をめざす。

### 2 中期的目標

#### 【1】 生徒の夢や志を育み、国際感覚を育成する

##### (1) グローバルリーダーズハイスクール (GLHS) にふさわしい「志学」や「キャリア教育」を推進する

###### ア 進路意識の醸成を図る

「総合的学習の時間」・LHR等で社会の第一線で活躍する人材を有する同窓会等と連携し、卒業生を活用し大学や社会での最先端の学問や研究、仕事の最前線に触れさせる。

- ※ 「三丘セミナー」等の充実を図り、毎年 20 講座以上提供する。
- ※ 「CS 探究」の充実による志の形成サポートや大学のオープンキャンパスなどを活用し、学部選びや将来の志望育成を図る。
- ※ 「京大見学会」「東京方面キャンパスツアー」を毎年実施し、研究室訪問などを行うことにより、高い目標を醸成し、その満足度を 90%以上とする。
- ※ 本校にふさわしい 3 年間を見通した進路・キャリア教育のプログラムを完成させる。

###### イ 高い志を育成する

三丘セミナー、大学訪問、医療系職場体験などの具体的なプログラムを提供するとともに、難関大学の見学会や体験事業を通じて社会に貢献できる高い志や目標意識を育む。

- ※ リーダーとして高い志を育成するための進路講演会・懇談会を充実させ、生徒の満足度を 90%以上とする。
- ※ 京大・阪大・神大などの難関大学の研究室訪問や見学会を年 5 回以上実施するとともに、その内容の改善・充実を図り、満足度 90 パーセント以上を維持する。
- ※ 医療現場と連携して医師・看護師などの医療系職場体験の充実によって、医療系進学者の増加を図る。(H24 年度 24 人、H25 年度 32 人、H27 年度 29 人、H28 年度 25 人)

##### (2) 国際感覚とグローバルリーダーの育成を図る

###### ア グローバルリーダーの育成

スーパーグローバルハイスクール (SGH)、グローバルリーダーズハイスクール (GLHS) にふさわしい確かな学力を育てるため、「Creative Solution s C S I II III」を充実させ、確かな英語の学力をつけるとともに、グローバルリーダーをめざした目的意識を醸成する。SGHカリキュラムによる「国際機関の現状と使命」や「世界の最新の知見」を学ぶことにより、生徒の学習意識を高め、グローバルリーダーとしての素養とリーダーシップを学ぶ。

また、TOEFLをはじめとする 4 技能を育成する英語授業を英語科全体として取組んでいく体制の開発・構築をはかる。

- ※ 「4 技能を育成する英語授業」の構築と内容の充実を図る。授業満足度 70 パーセント以上をめざす。
- ※ 英語教育の充実を図り、4 技能型の外部試験 (TOEFL ITP、TOEFL iBT、GTEC など) の受験者 400 名以上をめざす。海外進学 1 名以上をめざす。
- ※ 学校教育自己診断 (生徒) 「コミュニケーションに必要な英語を学ぶ機会がある」肯定的評価 70%以上をめざす。(H28 73%)

###### イ 国際感覚の育成を図る

オーストラリア・スタディーツアー、アメリカ・スタディーツアー (ポートランド・NASA) やフィリピン・スタディーツアー、海外への修学旅行 (H28 年以降 3 年間は台湾)、などの海外交流をしっかりと企画のもと充実した内容で持続的に実施する。

- ※ すべての企画で満足度 90%以上をめざす。
- ※ 海外よりの交流生徒・短期留学生の受け入れ 20 名以上をめざす。また、中国・韓国との交流にも努める。
- ※ 学校教育自己診断 (生徒・保護者) 「国際交流に関する取り組みが充実している」の肯定的評価 80%以上をめざす。(H28 生徒 81.4% 保護者 85.2%)

#### 【2】 確かな学力の向上と進路希望の実現を図る

##### (3) 質の高い授業による確かな学力向上

###### ア 質の高い授業の提供

SGH・SSH・GLHS・SET 配置校としてふさわしい確かな学力を育てるため、関連科目の充実や文理学科・普通科に適した教科・科目の教材開発、アクティブラーニングや電子黒板を用いた双方向の授業方法などの研究を進める。

- ※ SGH・SSH・GLHS・SET 配置校として毎年 4 回以上の授業公開を行うとともに、保護者への授業公開も 3 回以上行う。
- ※ 1・2 年生で 1 日 2 時間以上の自学自習 (学校外での学習時間) をめざし、そのための指導を充実する。
- ※ 授業アンケートや研究授業、校内の相互授業見学などを活用して授業力向上を図り、質の高い授業により生徒の授業評価における授業満足度が 80%以上を維持する。(H28 年度 85%) また、学校教育自己診断における保護者の授業満足度 60%をめざす。(保護者 H28 年度は 55.0%)

###### イ 学力向上の取組み

教科会議を充実させ、教科としての教科指導力の向上をはかる。また隔週土曜日 4 限授業の導入に伴い、3 年生における新たな「三丘スタディーハード」の構築を図る。

1 年生及び 2 年生で勉強合宿を実施して、学力向上と学習意欲の向上を図る。

- ※ 「三丘スタディーハード」の生徒の満足度 70%以上をめざす。
- ※ 勉強合宿への参加生徒の満足度 90%以上を維持するとともに、つねにプログラムの工夫・改善を行う。
- ※ 「CS 探究 I II」(課題研究) や発表大会を充実させ、生徒の満足度 80%以上をめざす。
- ※ 基礎的、基本的な学力を高めるために読書量、読書時間の確保を図る。

##### (4) 進路希望の実現

難関国公立大学等 (東大、京大、阪大、神大、市大、医学部医学科) への進学者の増加を図る。(H28 年度 143 人)

- ※ 現役の難関国公立大学進学者数を毎年増加させる。(H28 年度 100 人)
- ※ 学校教育自己診断において、本校の進学指導に対する生徒の満足度 80%以上を維持する。(H28 年度 85.8%)
- ※ 1・2 年生の成績不振者には計画的な「成績不振者講習」を行い、学力の回復と意欲向上を図る一方、発展的専門的な学習を行い、学力を養成する。
- ※ 進路交流会、勉強合宿などを利用して卒業生による学習・進路相談を充実させ、生徒の進路意識の醸成を図る。(年間 5 回以上) 生徒自らが適切な進路選択ができるとともに、難関大学への志望力を高めるために進路指導体制の強化を促進する。
- ※ 進路ホームルームの充実と 3 年間を見通したプログラムの進化に努める。

#### 【3】 基本的な生活習慣の確立と自主自立・人権尊重の精神の涵養

##### (5) 生活習慣の確立と三丘スピリット育成

規範ある集団生活を確立し、遅刻指導の徹底と授業集中力を高める。

- ※ 1 日 1 クラス当たりの遅刻人数を 0.5 人未満の維持をめざす。
- ※ 部活動や学校行事を通じて「三丘スピリット」を育み、「集中と切替え」ができる生活態度を育てる。
- ※ 各種の行事や部活動を通じて豊かな人間性とリーダーに必要な資質を養う。また顕著な成績をおさめた生徒は積極的に顕彰する。
- ※ 1・2 年生の部活動加入率 95%以上の維持をめざす。
- ※ 悩みや不安を抱えた生徒に対応するため教育相談やカウンセリングの機能を高める。

**(6) 人権尊重の教育推進**

情報リテラシーの育成などの今日的課題をふまえて、リーダーにふさわしい豊かな人間性や資質を涵養するため、日常の教科教育のみならず、あらゆる場面で教職員が、人権教育に協力して取り組んでいく。

- ※ 毎年、学年ごとに1回以上の人権講演会および人権HRを行い、人権意識を涵養する。
- ※ 学校教育自己診断(生徒)の「人権・環境・福祉などの今日的課題について学習する機会がある」に対する肯定的意見50%以上をめざす。(H28年度52%)  
そのため、人権教育推進委員会と学年、分掌が連携して、恒常的な情報交換を行う。

**【4】 機動的な学校の運営体制の確立と教職員の資質向上**

**(7) 機動的な学校運営**

機動的な学校運営のため、学校経営計画の学校の目標や取り組みを共有し、実行し、常に教職員が課題や改善点を意識し、次年度につなげる。

- ※ 教職員個々の評価・育成システムでは学校経営計画の項目に関連した目標を設定し、取り組む。また、年度末の自己評価で明らかになった課題や改善点は次年度の目標に反映させる。
- ※ 組織的・機動的な学校運営ができるよう、学校組織や業務の見直しに不断の努力を行う。
- ※ ICTが活用できる環境作りと機動的な情報伝達と共有を図り、全員がICTを使って業務の省力化を図る。
- ※ ICT統合及び校務処理システムの円滑な実施をめざす。

**(8) 安全・安心で開かれた学校**

安全で安心できる学校をつくるため、緊急事態発生時の対応や教職員の研修など危機管理体制を確立する。

- ※ 各学期1回以上の研修を実施する。  
生徒相談室の機能の充実を図るとともに、特に課題を抱えた生徒について、学年団での情報交換や連携指導を深める。
- ※ 各学期1回以上のケース会議の開催と、随時の学年団での情報交換会を開催する。
- ※ 開かれた学校として、保護者や地域との連携を図るとともに、教育活動や学校運営についてWebページを通じ公表していく。
- ※ Webページは随時更新し、行事等は10日以内の情報提供をめざす。
- ※ 学校教育自己診断(保護者)の「学校は、保護者から意見をきく機会を多く持っている」に対する否定的意見が15%以下をめざす。(H28年度 否定的意見16%)  
そのため、保護者集会(学年連絡会)を各学年で実施し、内容を充実させる。
- ※ 文化祭や登録文化財「三丘会館」、芸術祭、各種講演会などを広く府民に積極的に公開する。
- ※ 地域住民、府民など公開する行事を年間3日以上設定する。

**(9) 教職員の資質向上**

新着任教員対象が、新しい職場への早期適応と研修の充実による教職員の資質向上を図る。

- ※ 若手教員の勉強会である「三究会」を中心に各学期1回以上の研修を実施する。  
授業力向上をめざし、校内研究授業を学期ごとに開催するとともに、教育産業等が主催する研修や他校の研修の受講を支援する。
- ※ 教育産業や他校の研修に年間50人以上の参加を促進する。

**【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】**

学校教育自己診断の結果と分析 [平成29年11月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【Ⅰ】生徒・保護者アンケートで肯定的な意見が90%を超えるもの                      [生徒] ① 学校生活は楽しく入学して良かった。(92.3→91.5%)                      ⑩ 文化祭・体育祭や部活動等において生徒は自主的に活動している。(94.4→94.8%)                      ⑮ プロジェクター等の映像機器を活用した授業は効果的である。(90.0→92.1%)                      【Ⅱ】生徒・保護者アンケートの経年変化から                      (1) 進路指導に関する事項                      [生徒] ⑤ 必要な進路情報の提供等、適切な進路指導を行っている(85.4→86.4%)                      [保護者] ④ 学校は、生徒が必要とする進路情報(大学・職業等)の提供など適切な進路指導に努めている。(83.7→83.4%)                      (2) 授業に関する事項                      [生徒] ⑦ 満足できる授業が多い。(70.8→75.9%)                      [保護者] ⑧ 満足できる授業が多いと聞いている。(55.0→58.9%)                      【分析】                      過去5カ年でも連続して7割以上と生徒には肯定的な意見が多い。ここ数年、教員の入れ替わりもめまぐるしいので、教科内で連携し、三丘生が期待する授業の質を一層保証していく必要がある。                      (3) 施設・設備、校内美化に関する事項                      [生徒] ⑰ 学校の施設設備は学習環境として適切である。(81.7→80.5%)                      [保護者] ⑱ 学校の施設設備は学習環境として適切である。(75.5→76.7%)                      【分析】                      生徒・保護者ともに肯定的な意見が多いが、徐々に老朽化は進み、各所で点検・整備が必要な施設設備が多くなってきている。改修・整備は行っているが、追いついていないこともあり生徒の肯定的意見が減少していると考えられる。しかし、教職員の肯定意見は64.7→72.3%と上昇しており、修理や更新が少しずつ行われていると教職員は認識している。                      [保護者] 21 現在の本校のPTA活動は適切である。(71.5→74.9%)                      【分析】                      例年、保護者の肯定的な意見が多く、保護者同士の交流の場として果たす役割は大きい。また、教職員でも同窓会・PTA・後援会が学校をよく支援してくれていると考えている者が97.9%と高い値を示している。                      (5) 三丘セミナー等に関する事項                      [生徒] ⑲ 総合的な学習で受講した三丘セミナーや体験授業は役立っている。(71.8→71.9%)                      [保護者] 23 総合的な学習で受講した三丘セミナーや大学見学、医療体験などは役立っている。(84.1→84.2%)                      【分析】                      この項目は肯定的な意見が毎年高く、三丘セミナー、その他の体験授業の充実を評価していると判断でき、今後も工夫しながら継続・発展させるのが望ましいと考える。                      【Ⅲ】教職員アンケートの経年変化から                      ① 学校では、教育計画の作成にあたって、教職員で話し合う機会が多い。(49.0→70.2%)                      ② 学校では、教育活動全般にわたる評価を行い次年度の計画に生かしている。(64.7→55.3%)                      ⑦ 学校では、教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教員とも相談することができる。(90.2→91.5%)                      ⑨ 学校では、生徒の問題行動が起きた時、組織的に対応できる体制が整っている。(80.4→87.2%)                      【分析】                      教育計画の作成にあたり教職員で話し合う機会が多くなってきたが、それについて総括をしっかりと行い次年度につなげる必要がある。</p>	<p>第1回 7月6日                      ○今年から学年の状況を聞かせてもらう機会があり、良かった。SSHやSGHの優秀な生徒の姿勢が学校全体に広まっていく事が望ましい。                      ○1年生のスタディーサポートの後に今年度から取り入れた自己分析シートは、良い取り組みだ。今後も継続してほしい。                      ○三国丘高校の活動に感心し、安心している。                      ○SSHやSGHの活躍などは、もっと中学生に分かりやすい形でアピールするものがあれば良いと思う。</p> <p>第2回 10月28日                      ○探究活動では、教員の持つ生徒数が増加し指導が追い付かない場合、支援システムを利用するなどの工夫をしてはどうか。                      ○学校の取組みを保護者に伝える機会や発信する機会を増やしてほしい。                      ○モチベーションを上げる取り組みだけでなく、自分がやりたい事に気付かせる取り組みもしてほしい。                      ○各学年で保護者も巻き込んで丁寧に教育活動を進めてくれているので、引き続き頑張してほしい。</p> <p>第3回 2月17日                      ○堺市の全小中学校で電子教科書を取り入れ、中学校でも徐々に取り入れてきている。今後そのような学習に慣れた生徒が多くなってくると思う。                      ○進路希望調査からも三国丘高校の人気の高いのわかる。入学してくる生徒は、少なからず三国丘高等学校に期待を持って来ているので、その期待に応えて欲しい。また高校に入学してから自分の考えや興味が変わる生徒もいる。そういった生徒への対応もしっかりしてほしい。                      ○英語4技能型学習には、保護者も敏感になっている。その意味でも三国丘高等学校への期待は大きい。                      ○来年度、学級懇談会を行う予定とあるが、これは効果が大きいと思われる。                      ○保護者としては、家でなかなか勉強できないので、土曜授業があると有難かった。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価 進捗状況（3月23日）
<p>1 生徒の夢や志を育み、国際感覚を育成する取組みの推進</p>	<p>(1)グローバルリーダーズハイスクールにふさわしい「志学」や「キャリア教育」を推進 ア 進路意識の醸成を図る  イ 高い志を育成する</p>	<p>①「三丘セミナー」等の充実を図る。 ②探究的学習「CS探究」の充実を図る。 ③科学の最前線にふれる機会を提供し、科学教育の充実を図り、理系進学者の増加を図るために、また高い進路意識を醸成するために「東京方面キャンパスツアー」を実施する。 ④本校にふさわしい3年間を見通した進路・キャリア教育のプログラムを完成させる。 ⑤リーダーとしての高い志を育成するために進路講演会・懇談会などの取組みを充実させる。 ⑥京大・阪大・神大などの難関大学の研究室訪問や見学会を実施する。 ⑦医師・看護師などの医療系職場体験を実施し、医療系進学者の増加を図る。</p>	<p>①20講座以上提供する（H28年度24講座）参加生徒の満足度85%以上 ②課題研究生徒の満足度85%以上 ③キャンパスツアー参加生徒の満足度85%以上（H28年度100%） ④3年計画の進路プログラムの充実 ⑤実施回数年8回以上（H28年度10回） ⑥実施回数年8回以上 ・学校教育自己診断（生徒）「適切な進路指導」肯定的評価85%以上（H28年度85.4%） ⑦参加生徒の満足度85%以上 ・医療系進学者の5%増加（H28年度25人）</p>	<p>①三丘セミナー11回、東大1回、京大3回、阪大4回、市大1回、府大1回の訪問など計21講座実施。 参加生徒の満足度95%（◎） ②SSH・SGH・CS探究とも充実した内容を実施。 1,2年生文理学科全員課題研究を実施し、「CSⅡ中間発表会（9月）」実施。1,2年全員対象に最終発表会（2月）実施 生徒の満足度89%（◎） ③「東京キャンパスツアー」実施（8月）卒業生の教授等の協力で質の高い内容実施。（満足度100%）（◎） ④民間英語導入などの新大学入試を踏まえ、引き続き検討を続ける（○） ⑤卒業生等による交流会（2年全員8月、3年全員10月）、希望者1回（5月）、医学部希望者1回（6月）・海外大学希望者1回（7月）、九州大進学希望者1回（9月）、東京研修・勉強合宿2回 計9回実施。（○） ⑥東大1回、京大3回（内1回は1年全員）、阪大4回、研究室訪問・見学会 計8回実施（○） 「適切な進路指導」肯定的評価86%（○） ⑦地元病院での医療体験1回、大学医学部見学1回実施 参加生徒の満足度100%（◎） 70期生医療系進学希望 医15名 看10名、歯1名、薬16名 計42名 ⑧生徒の授業満足度88% 海外大学進学希望者増加 70期3名（○）</p>
	<p>(2)英語によるコミュニケーション能力の育成を図る ア グローバルリーダーの育成 イ 国際感覚の育成を図る</p>	<p>⑧ネイティブ教員による授業や海外事前研修により、生徒の学習意識を高め、グローバルリーダーとしての素養とリーダーシップを学ぶ。 ⑨4技能を育成する英語授業の構築と内容の充実を図る。 ⑩英語教育の充実を図るとともに4技能型の外部試の受験者の増加をめざす。 ⑪オーストラリア・スタディーツアー、アメリカ・スタディーツアー、フィリピン・スタディーツアー、海外修学旅行を実施しグローバルリーダーとしての意識の向上を図る。 ⑫海外よりの交流生徒・短期留学生の受け入れを積極的に行う。</p>	<p>⑧生徒の授業満足度90%以上 ・海外進学1名以上をめざす。（H28年度2名） ⑨生徒の授業満足度80%以上をめざす ⑩TOEFL ITP、TOEFL iBT、GTECなどの 合計受験者400名以上をめざす（H28年度401名） ・学校教育自己診断「コミュニケーション英語を学ぶ機会」肯定的評価70%以上をめざす（H28年度73%） ⑪スタディーツアー参加生徒の満足度90%を維持（H28年度90%） ⑫海外からの受け入れ80名以上をめざす（H28年度81名） ・学校教育自己診断（生徒・保護者）「国際交流に関する取組みが充実している」の肯定的評価80%を維持。（H28 生徒81% 保護者85%）</p>	<p>⑨1年生4技能型授業 全クラスにおいて実施。 生徒の授業満足度86%（○） ⑩1年生全員GTECを受験（360名）、3年生12名が、TOEFL iBT（Practice Testを含む）を受験、1,2年生希望者が、TOEFL iBT Practice Testを受験（48名）計420名 「コミュニケーション英語を学ぶ機会」肯定的評価80%（◎） ⑪・オーストラリア・スタディーツアー30名 ・フィリピンSGH研修19名 ・SSH米国NASA・FIT研修26名 ・71期台湾修学旅行317名 台湾大学および現地高校 新竹高級中学、羅東高級中学、師範大付属高級中学）と交流 ・香港にスポーツ交流男子バスケット部実施（3月） スタディーツアー生徒満足度95%（◎） ⑫・海外よりの受け入れ交流 韓国慶山高校より40名訪問（7月）生徒交流 オーストラリア カンタベリー高校より13名（9月） ホームステイ、上海市立第一高等中学より17名（10月）、アセアン交流 ブルネイ・マレーシア等6名来校 ・倫理の授業中に留学生10人によるのべ13回の異文化交流を取り入れ、多様な場面で英語の実践を実施。 計86人（○） ・SSH・SGH合同で3年生の最終課題研究発表として、約40名の様々な国の留学生に英語で発表を行った。 「国際交流に関する取組みが充実している」の肯定的評価 生徒88% 保護者87%（◎）</p>

<p style="text-align: center;">2 確かな学力の向上と進路希望の実現</p>	<p><b>(3) 質の高い授業による確かな学力向上</b></p> <p><b>ア 質の高い授業の提供</b></p> <p><b>イ 学力向上の取り組み</b></p> <p><b>(4) 進路希望の実現</b></p>	<p>①SGH・SSH・GLHS・SET設置校として文理学科・普通科に適した教科・科目の教材開発、授業方法の研究を進める。</p> <p>②生徒の自学自習（家庭等での学習）時間を2時間以上確保させる。</p> <p>③授業アンケートや研究授業を活用して授業力向上を図る。</p> <p>④1年生及び2年生で勉強合宿を実施して、学力向上と学習意欲の向上を図る。</p> <p>⑤課題研究(CS探究)をイノベーション人材育成の観点から一層充実させる。</p> <p>⑥基礎的、基本的な学力を高めるために読書量、読書時間の確保を図る。</p> <p>⑦難関国公立大学等（東大、京大、阪大、神大、市大、医学部医学科等）への合格者の増加を図る。</p> <p>⑧1、2年生の成績不振者には計画的な「成績不振者講習」を行い、学力の回復と意欲向上を図る一方、発展的専門的な学習「進学講習（三丘スタディーハード）」を行い、学力を養成する。</p> <p>⑨卒業生との進路交流会により、学習・進路相談を充実させ、生徒の進路意識の醸成を図る。</p> <p>⑩生徒自らが適切な進路選択できるとともに、難関大学への志望力を高めるために進路指導体制の強化し、3年間の進路育成プログラムを完成させる。</p>	<p>①SGH・SSH・GLHS・SET設置校として、教員対象授業公開年4回以上、保護者への授業公開3回以上を実施する。(H28年度7回)</p> <p>②1、2年生で1日2時間以上の自学自習する生徒の割合50%以上をめざす (H28年度47%)</p> <p>③生徒の授業満足度85%以上を維持 (H28年度85%) 生徒の「三丘スタディーハード」の満足度70%以上をめざす。(H28年度90%)</p> <p>④参加生徒の満足度85%以上を維持 (H28年度100%) 生徒の参加数100名以上をめざす</p> <p>⑤参加生徒の満足度85%以上維持 (H28年度100%)</p> <p>⑥「読書記録」や「図書だより」を活用するなどして、読書指導を充実 (1,2年次は、学期に5冊以上読書)</p> <p>⑦難関国公立大学合格者数を毎年増加させる (H28年度143人)</p> <p>⑧難関国公立大学現役合格者数を毎年増加させる (H28年度100人)</p> <p>⑨卒業生との懇談・相談会の年間5回以上の実施を維持 (H28年度7回)</p> <p>⑩本校の進学指導に対する生徒の満足度80%以上をめざす (H28年度85%)</p>	<p>①公開授業は、他校の教員対象4回、保護者対象3回実施。他校教員対象では、授業後に研究協議も実施し意見交換を行い、授業改善に有意義な機会となった。(○)</p> <p>②家庭学習時間についてアンケート結果(第2回11月)は、昨年度第2回と比較して、2時間以上、1年は、38%⇒34%、2年は57%⇒58% 3年は95%⇒97% 1年生の学習時間に課題がある。今後改善策を立てていく必要がある。(△)</p> <p>③土曜授業を計画的に実施。年間15回。授業アンケートを2回実施。それに伴い教職員も改善シートによる振り返りを全員実施。 生徒の授業満足度89% (○) 三丘スタディーハード253回実施。満足度80% (○)</p> <p>④勉強合宿は7月に1年大阪、8月に2年高野山で実施。1年64名、2年31名 計95人参加 生徒の満足度は100% (○)</p> <p>⑤・SSH全国生徒発表会(8月神戸)にて3年発表 ・京都大阪数学コンテスト2年2名参加 ・京大ELCASに1年2名、阪大SEEDSに1年2名、2年1名 計3名参加 ・大阪学生科学賞 学校賞、科学オリンピック3名全国出場、情報リテラシー優秀賞3名、SGH全国ベスト4、ビジネスグランプリ全国ベスト100など、成果を上げている。 ・1,2年生文理学科において全員課題研究を実施。「CSⅡ課題発表会」最終発表会を2月実施 参加生徒の満足度89% (○)</p> <p>⑥国語科が中心となり、特に1、2年生での「読書記録」を提出させて読書指導を行い、月3冊の読書を推進。読書指導は継続して重要課題である。(○)</p> <p>⑦東大1名、京大25名、阪大42名、神大19名、市大33名、府大13名、医学部医学科7名 計140名</p> <p>⑧成績不振者講習1年生2,3学期31回、2年生1・2・3学期50回。進学講習は三丘スタディーハードとして253回実施。(○) 現役 東大1名、京大16名、阪大31名、神大14名、市大30名、府大21名、医学部医学科1名 計114名(◎)</p> <p>⑨3年2回、1・2年各1回、医学部2回、九大1回、海外大学1回、東京方面大学1回、計9回実施し、生徒の進路意識の向上を図った。(○)</p> <p>⑩1、2年のPTA学年連絡会において、外部講師による進路指導講演会も取り入れ、保護者向けの進路意識啓発を行った。 進学指導に対する生徒の満足度86%(○)</p>
---	--	---	---	--

<p>3</p> <p>基本的な生活習慣の確立と 自主自立・人権尊重の精神の涵養</p>	<p>(5) 生活習慣の確立と三丘スピリット育成</p> <p>(6) 人権尊重の教育推進</p>	<p>①規範ある集団生活を確立し、遅刻指導の徹底と授業集中力を高める。</p> <p>②部活動や学校行事を通じて「三丘スピリット」を育み、「集中と切替え」ができる生活態度を育成する。</p> <p>③各種の行事や部活動を通じて豊かな人間性とリーダーに必要な資質を養う。</p> <p>④・人間関係の構築などの今日的課題をふまえて、リーダーにふさわしい豊かな人間性や資質を涵養する。</p> <p>・人権教育推進委員会と学年や分掌が連携し、恒常的な情報交換を行う。</p> <p>・課題研究に関わる「動物倫理規定」を校内で検討し作成する。</p>	<p>①1日1クラス当たりの遅刻人数0.5人未満を維持 (H28年度0.48人) スマホ等の校内使用法を検討する</p> <p>②1、2年生の部活動加入率95%以上を維持 (H28年度95%)</p> <p>③挨拶運動を年2回以上実施 リーダー研修を年1回以上実施 (H28年度2回実施)</p> <p>④・各学年、年1回以上の人権講演会と人権HRの実施 ・学校教育自己診断(生徒)「人権・環境・福祉に関して学ぶ機会」に関する肯定的評価50%以上をめざす (H28年度53%)</p> <p>・校内の「動物倫理規定」の完成をめざす。</p>	<p>①遅刻は1日1クラスあたり0.28人(昨年0.48人)で大幅減少。(◎) 学年別では1年生0.11→0.20、2年生は0.28→0.17、3年生1.10→0.49で1年生が増加。学習の基盤となる規範意識の向上に一層努めたい。 スマホの使用法について検討は進んでいない(△)</p> <p>②生徒会中心に文化祭において昨年に続き、後夜祭を実施。部活動加入率96.4% 水泳部・なぎなた部近畿大会出場。サッカー部府内ベスト32、男子バレー部府内ベスト16など好成績。文武両道の三丘スピリットの継承に力を注ぎたい。(○)</p> <p>③リーダー研修を5月、12月の2回実施。 挨拶運動も生徒会を中心に、春・秋実施。今後も全教職員が様々な場面で力を合わせて取り組んでいきたい。(○)</p> <p>④全学年対象に「インターネットと人権」をテーマに人権講演を実施(4月) ・3年「国際社会と人権」(6月)、1、2年は「多文化共生、外国籍住民の人権」をテーマに実施。(11月) ・教員人権研修は、「教育現場における合理的配慮」をテーマに8月実施。 「人権・環境・福祉に関して学ぶ機会」に関する肯定的評価53%(○) ・校内の「動物倫理規定」について作成済み (○)</p>
<p>4</p> <p>機動的な学校運営体制の確立と教職員の資質向上</p>	<p>(7) 機動的な学校運営</p> <p>(8) 安全・安心で開かれた学校</p> <p>(9) 教職員の資質向上</p>	<p>①機動的な学校運営のため、学校経営計画の学校の目標や取り組みを共有し、実行し、常に教職員が課題や改善点を意識し、次年度につなげる。評価・育成システムとより一層関連を深める。</p> <p>②校内イントラを一層積極的に活用し、情報の共有を進める。全員がICTを使って業務の省力化を図る。</p> <p>③安全で安心できる学校をつくるため緊急事態発生時の対応や教職員の研修など危機管理体制を確立する。</p> <p>④生徒相談室の機能の充実を図るとともに、特に問題を抱えた生徒について、学年団での情報交換や連携指導を図る。</p> <p>⑤開かれた学校として、保護者や地域との連携を図るとともに、教育活動や学校運営についてWebページを通じて公表していく。</p> <p>⑥文化祭や登録文化財「三丘会館」、芸術祭、各種講演会などを広く府民に積極的に公開する。</p> <p>⑦新着任教員が新しい職場に早期に適応できるように研修を実施し、教職員の資質向上を図る。</p> <p>⑧学力向上のため授業力向上をめざし、校内研究授業を開催するとともに教育産業等の授業研修受講を支援する。</p>	<p>①学校教育自己診断や提言シートなどを活用して、改善を図る</p> <p>②利用についての研修を1回以上実施(H28年度2回)</p> <p>③各学期1回以上の研修を実施 (H28年度各学期1回)</p> <p>④・「支援カード」の活用強化 ・随時、ケース会議を開催 ・「教育相談だより」を年6回発行 ・随時、学年団での情報交換会を開催 ・相談できる先生がいる70%以上維持 (H28年度72%)</p> <p>⑤各学年の保護者連絡会等を実施 ・Webページは随時更新し、行事等は10日以内の情報提供を行う</p> <p>⑥地域住民、府民など公開する行事を年間3日以上設定する。(H28年度7日)</p> <p>⑦年間6回程度の研修を実施する (H28年度6回)</p> <p>⑧・校内研究授業 各学期1回実施 ・教育産業等の授業研修や他校の研修に年間50人以上参加 (H28年度30人)</p>	<p>①学校教育自己診断アンケート(教職員)も実施。アンケートや提言をふまえて、今後の学校経営に理解を得る努力をしていきたい。</p> <p>②電子黒板などの効果的に授業で活用すべく、教員相互の授業見学を10月～11月実施。 校内イントラ利用に関する研修1回実施(○)</p> <p>③年2回全校避難訓練(4,11月)、教職員対象エビペ研修(6月)、「教職員救急救命研修」(7,12月)、また10月末に防災宿泊訓練を本校生徒、地域学童、教員等55名が参加。今年度も本校PTA1名も参加(○)</p> <p>④・主に問題を抱えた生徒発生時に支援カード活用 ・問題を抱えた生徒に対しての情報を共有し、統一した指導を行うために随時ケース会議を開催。7回 ・「教育相談だより」を10回発行 (○) ・教育相談担当を、保健部に移し、各学年と養護教諭・教育相談担当・SCとの情報交換が円滑に進むようになった。引き続き組織的対応を維持・強化していきたい。相談できる先生がいる70.4%(○)</p> <p>⑤・全学年、年間2回開催。毎回、視聴覚教室があふれるほどの参加がある。今後も保護者への情報提供の場として実施していきたい。(○) ・HPをリフォームし、見やすくした。行事ごとに速やかに情報提供するようになってきている。(◎)</p> <p>⑥・中学生・保護者対象の学校説明会を4回、塾対象説明会1回(7月)実施。 ・文化祭2日(約4000人來場)、体育祭1日、芸術祭4日など7日実施。(○)</p> <p>⑦若手教員の勉強会「三究会」において、校内勉強会やベテラン教員による研修を5回実施。(○)</p> <p>⑧・教員対象研究授業を年3回実施 ・校内での相互の授業見学を推進すべく、授業見学期間を10～11月に実施。各教員3回以上見学実施(○) ・教育産業や他校等が実施する教科研修や入試問題研究研修等に55人が参加。(○) ・他府県の先進的取組校を訪問し、教科指導・進路指導・の取組み等を研修 京都市立堀川高校、東京芸大付属、渋谷学園、茨城県立日立第一高校、土浦第一高校を訪問</p>